

令和4年度 昭和村総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和4年7月6日(水)
開会時間 午後2時30分
閉会時間 午後4時00分
2. 場 所 昭和村公民館2階研修室
3. 委 員 舟 木 幸 一 村長
栗 村 良 輔 教育長
齊 藤 加津代 教育長職務代理者
本 名 敬 教育委員
栗 城 照 美 教育委員
五十嵐 麻裕子 教育委員
4. 事務局 本 名 千 代 教育委員会教育次長兼公民館長
5. 議 題
協議事項
(1) 児童生徒の教育環境について
(2) その他の教育行政について

6. 会議概要

(1) 児童生徒の教育環境について

[意見要旨]

- 村長 児童生徒の教育環境について委員の皆様方から今考えていること、ご意見等をお話し頂きたい。
- 本名委員 小中一貫に関して1年前の会議で、私は新築はないのかとお尋ねした。少人数で小中一貫の丁寧な教育ができる方が昭和村らしいのではないかと。少人数だからこそできる何かがあるのではないかと思ひ、新築がいいというのが今の私の考え方です。
- 五十嵐委員 小中一貫といわれても建物などの不安が多く、意見のしようがないと言う方が大半で、保護者の中では終わった話では、という方もいる。今本名委員が言ったように方向性が決まってないと具体的に自分のこととして考えられない。いくつかの形を見せてもらえると意見も出しやすいと思う。子ども達が減っていくのにお金をかけるのはどうなんだということもあるが、社会教育も含めた大きな建物にして、自分もその建物に関わっていくと考えればもっと具体的に考えられるのではないかと。
- 栗城委員 タブレットやスマホを使うことで近視の子が増えているということを使う時間を10分経ったら休ませてというルールは、学校もあるようなので、昭和村でもやってもらいたい。
- 齊藤委員 去年のこの会議で、村長のご意見として、やるかやらないか決まっているわけではないというようなお話をされた。村長選の時に一貫校の話がされているが、それで決定ということによろしいか。それはなぜ必

要なのかという大きな方向性を示して頂きたい。

村長

第6次昭和村振興計画で、教育委員会の大きな柱として小中一貫教育を充実させるというのは振興計画10年間の大きな目標です。私の考え方としては、昭和村を良く理解して、昭和村を好きになって将来の昭和村の立役者になる子どもたちに成長してほしいという願いはあります。一貫校になることにより学力向上にも非常に有効な学校になる。昭和村独自の郷土理解を深めて昭和村に愛着を持つような子どもをどう育てるのか。子どもの個にあった教育がきめ細かにできる利点もある。小学校中学校通して一貫して子どもの成長を見守っていくということが可能になると思うので小中一貫校は村にとって大事な仕事ではないかと思っている。まずは教育委員会の中でどういう小中一貫の学校を作るのかという議論を盛り上げて頂きたい。先進地の研修も講演会もできなかったので、新年度仕切り直しでやれることから始めて、今年度は特に学校にこれから関わる方の意見は丹念にお聞きしながら進めていく必要はあると思っている。村の十年後を目標にした振興計画では小中一貫校は実現したいという方向性です。

齊藤委員

村長は村として一貫校を作っていくという大きな方向性があると言われましたが、村の人や保護者にわかりやすく説明するのは教育委員会の仕事であり、保護者がどう思っているかが先にあって、そこからボトムアップをして行政に議論を持って行くと考えているのか。

村長

私はそれが理想だと思います。振興計画には載せたが、小中一貫校のデメリットがあるという人が大半ならそれはやらなくて結構であり、丹念にご説明した上で小中一貫校が大事だということが多ければ、それに挑戦すべきだと私は思っている。

齊藤委員

一貫校は不安です。やったことがないし、リスクがあると捉えるのが普通です。だから村長としての大きな方向性必要だと思う。まず真ん中の軸は行政でやって、その後教育委員会でというところでできると思うが、そこがないように見えるところが非常に不安です。

村長

昭和村の第6次振興計画でこの線で行くという線が一本あり、これが中心です。全国的にも小中一貫校がかなり出始めたのはそれなりのメリットがあると思われるので、不安と不満、デメリットとメリットも両方見極めながらお互いに研究する必要がある。

本名委員

先ほど教育委員会で決めてもらえればとというお話しでしたが、調査した中で新築がいいとの話が出てくれば、教育委員会は教育長に申し上げてそこから伝わるということですか。

村長

私としては教育委員会の中で小中一貫校の議論を深めて、雰囲気醸成し、その上で振興計画で事業規模や実施年度が最終的に決まるのでその辺をお願いしたい。

本名委員

今言われた醸成ですが現在の建物に入るのか、新築するのかというのは、どうしても興味のあるところで、それも分からないのに小中一貫どうですかと漠然とふられてもそれは困る。

村長

実際に教育委員の皆様も現場を見て、お話しを聞いて、昭和の小中一貫はどうあるべきかということがそこから膨らんでくると思いますが、そういうプロセスがなく小中一貫が先行して、みなさん自身も戸惑ったことは理解できる。

- 本名委員 今までの経過は棒に振ったとも思いませんがきちんとしなければいけないポイントであると思う。
- 村長 今までの2年の分を仕切り直しで、もう一回やっていく必要はあると考える。一朝一夕にはできない。
- 教育長 社会、理科の専門の先生方が中学校から小学校へ乗り入れ授業を行っており、昭和小学校の子どもたちは恵まれてると私は思う。それがモデルの小中一貫教育という形になっていくと考える。
- 五十嵐委員 小中一貫教育で進めるとなったときに保護者の方も一人一人が勉強してもらえるように持って行けたらいい。教育委員の中で方向性を決めていいと言われて、その中で話したことを伝えられるようになればたくさんの人から意見が上がってくるのではないかと思われる。
- 村長 振興計画は10年後の未来を描く計画であり、みなさんから頂いた提案の財政負担をどうするか、何年度に配置するか。最終的に振興計画審議会の答申を得て事業として予算に反映するという事で、提案したからすぐできるという話ではないということだけのご理解いただきたい。
- 齊藤委員 財政計画があり、長い期間になることは非常によく分かるが現実的に今の建物を大規模改修するのか。
- 村長 小学校と将来的に中学校も大規模改修をやるということはその校舎を使うという大前提の話で、財政規模の小さな村では二重の負担になる。今の段階では大規模改修をやらなくて小中一貫校をしっかりと作って整備するほうが現実的だと思われる。
- 本名委員 大規模改修を4、5年のうちにやらない理由として、新築するという事にしておけば猶予期間があるということか。
- 村長 役場は耐震診断では有事の際の対策本部がいつ崩れてもおかしくないようなそういう庁舎で、議員からも役場庁舎はだんだんやらないという声が出てきた。
- 齊藤委員 村としては同時並行にはなるが、教育委員会としては小中一貫のみをしっかりと私たちの計画の中でやっていくということ。
- 村長 小中一貫校がどのくらいの事業規模になるかわからないが億単位の規模での大きい事業になることは確かです。
- 教育長 基礎知識は必要なので、子どもたちの様子を実際に教育委員さんたちに見てもらうことは非常に大切だと思っている。
- 本名委員 去年も教育委員とPTAのかたも一緒に行ければ気持ちの醸成にも繋がるという計画だった。
- 村長 この話はここで完結する話ではなくて、本日はみなさんから御意見をいただき、村長としての考え方をお伝えして、お互い懇談というかこれが本日の総合教育会議の趣旨だと思う。ここでお互いに話すことによって一歩でも半歩でも前に進むことができれば意味のある話です。

(2) その他の教育行政について

- 村長 その他の教育行政についてご意見等どうぞ。
- 齊藤委員 小野川の民具を今後どうしていくのかということのもお願いしたい。
- 村長 民具は整理、調査をして、公開してこそ生きてくるものなので、将来的にはみなさんに見ていただくことが大事だと私は思っている。それも含めて、文化財保護の視点になるので当然教育委員会で一貫校と併せて

御意見をいただく場面があるといいですね。

五十嵐委員 その民具は、もしそれを使いたいという人がいたらそういう所に還元していくことはどうか。

村長 それはないと思う。村に対して寄付や、寄託したものを民間の人に譲渡や貸与するということは寄託した人寄贈した人に対してどうなのか。

五十嵐委員 活用できるなら活用してはと思うがそれは難しいのか。織りの道具や、ほしい人はいると思う。村の中で使っていきたい、実際使うと伝えられれば生きる民具としていいのではないか。

村長 民具は増える一方で、教育委員会では、倉を処分するから中の大事なものがあつたら持って行ってと連絡をもらうと、文化財保護審議委員会の方が行ってその目で見ると村の資料として重要だと思ふものは古文書も含めて寄贈してもらっている。

齊藤委員 今の現状で民具がたくさんありますがその保存は大丈夫か。

村長 保存は難しい。からむし工芸博物館には国の重要有形民俗文化財 386点がある。そこに入れるには燻蒸をかけ、空調設備をして、常に自然光が当たらないようにしている。これは国の指定文化財だから。本当は民具もそういう手順を踏まないと、虫がついてたり、自然光や湿気の関係でだめになったりする場合もあるので、民俗資料館を作った場合にはその辺も考えてやるべきだと思う。

齊藤委員 今のところは現状維持ということか。

村長 空調設備を入れることも現実的ではない。他にご意見ありませんか。

本名委員 風力発電が駒止湿原の近隣に建つ計画があるということで、巷では相当盛り上がっているが個人的には知らないうちにそういう計画があるのかというのが第一印象で、全然理解できない。どうなっているのか。

村長 大きな概要については私も一切知らされていない。評価書は、村民のみなさんに意見を書いてもらうということで広報にも載せた。ぜひみなさんのご意見をお寄せ頂きたい。

[閉会]